

進路通信

兵庫県立北須磨高等学校 進路指導部

【模試を終えて】

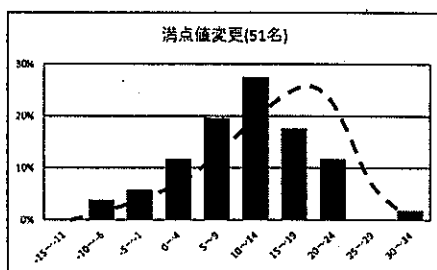
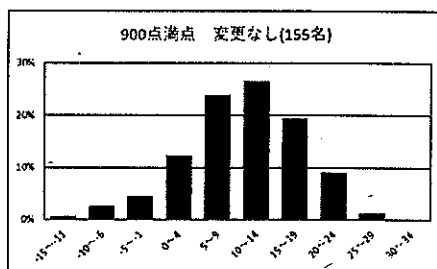
7月模試が終了しました。大雨のため1日空いたので十分に準備ができたと思います。結果が楽しみです。さて、「時間いっぱいを有効に使う」練習はちゃんとできましたか？記述式の解答なので、手がつけにくい問題もあったかも知れませんが、すぐに諦めずにしっかり取り組んでみる、という姿勢をクセとしてつけることが肝心です。見直しも直ちにしてください。

【少数科目受験は有利か？】

本校では1学期に受験する模試は志望校の受験科目にかかわらず、原則として「履修科目通り」としています。国公立志望者が多いので、マーク模試の満点値は900点が標準で、多くの人がこのパターンで受験しています。

しかし受験勉強が進むと、負担感から科目を減らそうとする人が出てきます。科目が減ると楽になって成績の上昇が効率的、と考えるからです。本当にそうでしょうか？

グラフは本校生のマークテストの素点の伸び率を示したものです。横軸のたとえば10～14は、6月マークから共通テストまでの間に総得点が10%～14%上昇したことを示しています。縦軸はその上昇を示した人が全体の何%に当たるかを示します。上のグラフは共通テストまで900点満点で受験した生徒、下は満点値を変更して科目を減らした生徒の結果です。



全体の傾向はどうでしょうか？科目を減らしたぶん、成績の伸びがよくなるのなら、下のグラフの山は点線で示したように大きく右へ移動するはずですが、しかし、実際には上下のグラフで分布は変わりません。7か月の間に総得点で10%～14%上昇する人が最も多く、全体の25%（4人に一人）です。10%～14%は得点に換算すると、900点満点では120点、500点満点では70点くらいの伸びになります。もっと伸びる人もいます、逆に伸び率がマイナスになる人もいます。いずれの集団でも変わりません。

このことから、少数科目に集中すれば成績が飛躍的に伸びる・効率的に成績が上向く、と考えるのは幻想であることがわかります。成績の伸びを決めるのは、特定の科目に使える学習時間の多寡ではないのです。また、受験から除外する科目が増えれば授業にはどうしても身が入らなくなります。1日の大半を過ごす学校生活の中で授業に向かう姿勢が一貫しなくなると、学習効果に大きな影響を与え、必要な受験科目の学習もそれにひきずられて低下してしまう人は大変多いです。また、負担感に耐えられず受験科目を減らそうと考えること自体がすでに受験に後ろ向きの姿勢で、第1志望実現がうまくいかない可能性は高いと思ってください。

受験は諦めたら終わりです。しんどい状況でも頑張ることだけが自分を飛躍させます。

